

認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成22年3月
熊本市（熊本県）

I. ポイント

○計画期間;平成19年5月～平成24年3月(4年11月)

1. 概況

平成23年3月の九州新幹線鹿児島ルート全線開業や、平成22年3月23日の植木町、城南町との合併による新市(人口約72万8千人)の誕生、さらには平成24年4月の政令指定都市移行を見据え、九州中央の交流拠点を目指す本市では、熊本市中心市街地活性化基本計画に基づく51事業を推進している。

この計画は、平成19年3月策定、同年5月28日に国から認定を受け、商業・交通等の民間事業者を始めとした多様な関係者によって構成される熊本市中心市街地活性化協議会が推進母体の役割を担っている。

これまでに、熊本城本丸御殿の完成(平成20年4月)や、熊本城築城400年祭により、平成20年度は城郭の中で日本一の入場者を記録するなど、活況を呈している熊本城周辺の賑わいを一過性としなないため、今後、熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)の整備やシンボルロードに位置する花畑・桜町地区の民間再開発等による新たな魅力創出によって回遊性向上を図ることとしている。

なお、中心市街地活性化基本計画に位置づけた51事業のうち、13事業が完了、37事業が実施中(うちハード事業18事業が未完了)、1事業が未着手である。

2. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	見通し
人々が活発に交流しにぎわうまちづくり	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量	309,381 人/日 (H18年)	340,000 人/日 (H23年)	292,753 人/日 (H21年)	④
城下町の魅力があふれるまちづくり	熊本城年間入園者数	825,807 人/年 (H17年度)	1,000,000 人/年 (H23年度)	2,219,517 人/年 (H20年度)	①
誰もが気軽に訪れることができるまちづくり	市電の年間利用者数	9,160,000 人/年 (H17年度)	9,280,000 人/年 (H23年度)	9,568,400 人/年 (H20年度)	①

注) ①取組(事業等)の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。

②取組の進捗状況は概ね予定通りだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

③取組の進捗状況は予定通りではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。

④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

⑤取組が実施されていないため、今回は評価対象外。

3. 目標達成見通しの理由

①人々が活発に交流しにぎわうまち

- ・ 通町・桜町の2つの商業機能等の核の機能改善による目標を達成する予定であったが、計画期間内に完了予定であった花畑地区の再開発事業の遅れなどから、目標達成は難しい見通し。

②城下町の魅力があふれるまち

- ・ 熊本城本丸御殿の完成や熊本城築城 400 年祭など、ハード・ソフトの取り組みにより数値指標の 2 倍以上となる約 220 万人を記録しており、目標達成は可能。

③誰もが気軽に訪れることができるまち

- ・ 低床式路面電車の導入や魅力ある企画乗車券の販売、均一料金の導入など、ハード・ソフト両面からの取り組みにより、市電利用者数は前年比(H20)で 433,522 人増加しており、目標達成は可能である。

4. 今後の対策

①人々が活発に交流しにぎわうまち

- ・ 今後、熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)の整備やシンボルロードに位置する花畑・桜町地区の民間再開発等による新たな魅力創出によって回遊性を向上させることで、歩行者通行量の増加を目指す。

②城下町の魅力があふれるまち

- ・ 現在の賑わいを一過性とすることのないように、今後、熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)の整備や熊本城櫓群の復元等による歴史的建造物としての魅力創出により、観光客の滞在時間の延長、回遊性向上を図る。

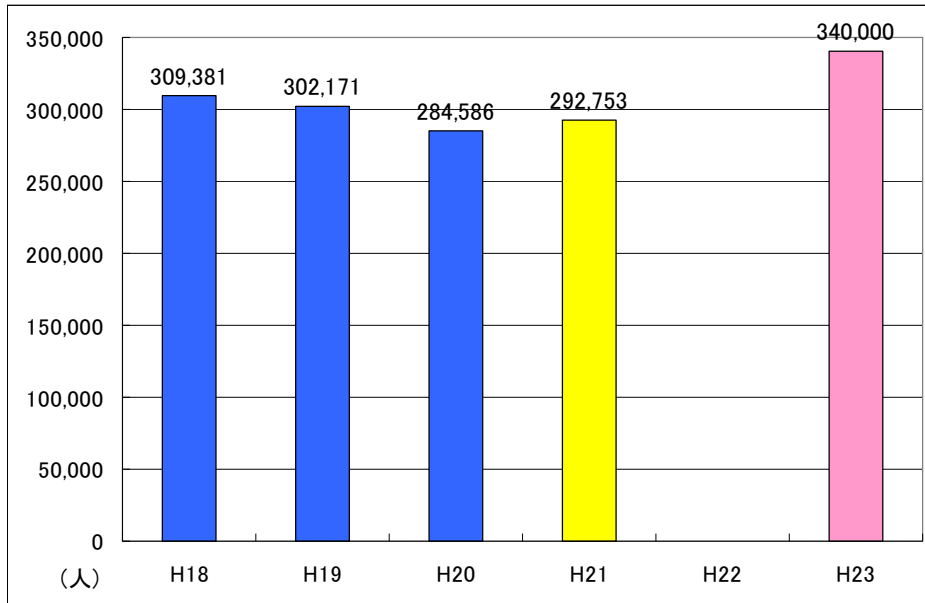
③誰もが気軽に訪れることができるまち

- ・ 今後は、優先信号の整備や他の公共交通機関との結節強化など、市電を中心とした公共交通機関のアクセシビリティや利便性を向上し、誰もが気軽に訪れることができる環境整備に取り組む。

II. 目標「人々が活発に交流しにぎわうまち」

「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P51～P59 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位: 人/日)
H18	309,381 (基準年値)
H19	302,171
H20	284,586
H21	292,753
H22	
H23	340,000 (目標値)

※調査月：平成21年8月

※調査主体：熊本市、熊本商工会議所

※調査対象：計測地点28か所における商店街内歩行者及び自転車（中学生程度以上）通行量の2日間（金曜日と日曜日）の平均値

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①優良建築物等整備事業（花畑地区）〔実施主体：地権者等関係者の協議により決定〕

事業完了時期	【未】平成25年度
事業概要	中心市街地の核として、商業・業務・ホール機能を持った複合施設の新設により、地域の賑わいと回遊性の向上及び文化の振興を目指す。
事業効果又は進捗状況	世界的な金融不安、景気低迷の中、国内経済の先行き不透明感による不動産開発をめぐる市場悪化の影響等から、当初予定の実施時期より遅れている。 現在、平成21年度内に事業フレームを確定、平成22年夏ごろまでに都市計画決定、平成23年度内の着工、25年度の完了を目指している。 なお、本事業により桜町周辺の主要5地点の歩行者通行量8,000人の増加を見込んでいる。

②高次都市施設 熊本城桜の馬場観光交流施設（仮称）整備事業〔実施主体：熊本市〕

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	本地区は、熊本城のエントランス部にあたり、この地区に総合観光案内所、歴史文化体験施設、多目的交流施設等を整備することによって、熊本城の更なる魅力が創出され、観光客の滞留時間が延長することで、ひいては周辺の商業施設や宿泊施設などへの回遊性を向上させる。
事業効果又は進捗状況	熊本城の賑わいが維持されるとともに、本市の課題である熊本城と中心市街地の回遊性向上が図られる。また、本年2月より建設に着手しており、23年春の供用開始を予定している。

③下通アーケード改修事業【実施主体：下通二、三、四番街各商店街振興組合】

事業完了時期	【済】平成 20 年度
事業概要	下通全体を、来街者にとって安全で安心できる、駅のコルコースのような空間（アーケード）とするため、ハードとソフト両面で魅力を高め、<やさしい街づくり>を基本コンセプトに「生活・環境」「公共交通」「福祉・子育て支援」という各テーマを基に、段階的に実施することで、商店街としてのコミュニティ性の向上を図る。
事業効果又は進捗状況	アーケードを天空面積が広く、透明感があり、天井高の高い、開放的で光と風と緑に溢れる可動式天蓋への修繕が平成 21 年 5 月に完了。併せて、ストリートファニチャー（休憩施設）やドライミスト発生装置などを設置し、快適な空間を演出。さらに、ベビーカーや車椅子の無料貸し出し、駐車券の発行等を実施している。

④地域創造支援事業 中心市街地活性化推進事業【実施主体：ストリート・アート・プレックス実行委員会、商工会議所】

事業完了時期	【実施中】平成 17 年度～
事業概要	ジャズ、大道芸等によるまちの文化、芸術の発信等を行い、日常的に持続的に常に新しいパフォーマンスアートを提供することを目的としている。
事業効果又は進捗状況	毎年 20 回前後、平成 22 年 3 月末までに通算 144 回開催されている。

⑤熊本駅前東 A 地区 関連事業（3 事業）【実施主体：熊本市】

(A) 熊本駅前東 A 地区市街地再開発事業

(B) 暮らし・にぎわい再生事業（熊本駅前東 A 地区）

(C) 情報交流施設整備事業（高次都市施設 地域交流センター、地域創造支援事業 情報交流施設）

事業完了時期	【済】(A)平成 20 年度 【未】(B) 平成 24 年度 【未】(C) 平成 24 年度
事業概要	熊本駅前東 A 地区において公共公益施設、商業業務施設、共同住宅等の整備を一体的に行うことにより、賑わいと人に優しい都市環境の創出を図る。
事業効果又は進捗状況	H19 用地取得、建物補償、基本設計等の実施 H20 管理処分計画の策定、工事着工 H21～24 工事、建物しゅん工、保留床処分

⑥暮らし・にぎわい再生事業（熊本駅周辺地区）【事業主体：民間事業者】

事業完了時期	【済】平成 20 年度～平成 28 年度
事業概要	熊本の玄関口にふさわしい魅力ある市街地整備を官民連携して進めるため、医療系専門学校、社会福祉施設、医療施設、住宅、商業・業務施設等を整備する。
事業効果又は進捗状況	平成 20 年 4 月に A 棟（120 名*4 学年）、平成 21 年 4 月に B 棟（80 名*3 学年）の医療系専門学校が開校。なお、C、D 棟については平成 28 年度までに竣工予定である。

⑦企業立地促進事業【事業主体：熊本市】

事業完了時期	【実施中】平成 11 年度～
事業概要	空きオフィス等への事業所の新設、増設への支援措置を講じるもの。
事業効果又は進捗状況	企業誘致活動により H19 は 5 件、H20 は 7 件、H21 は 4 件の企業が中心市街

捗状況	地に進出した。
-----	---------

⑧地域創造支援事業 本丸御殿復元整備事業〔実施主体：熊本市〕

事業完了時期	【済】平成 19 年度
事業概要	熊本の歴史・文化を象徴する熊本城の本丸御殿の復元整備。
事業効果又は進捗状況	平成 20 年度の熊本城入園者数は、約 220 万人を記録したものの、中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量は減少傾向にある。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

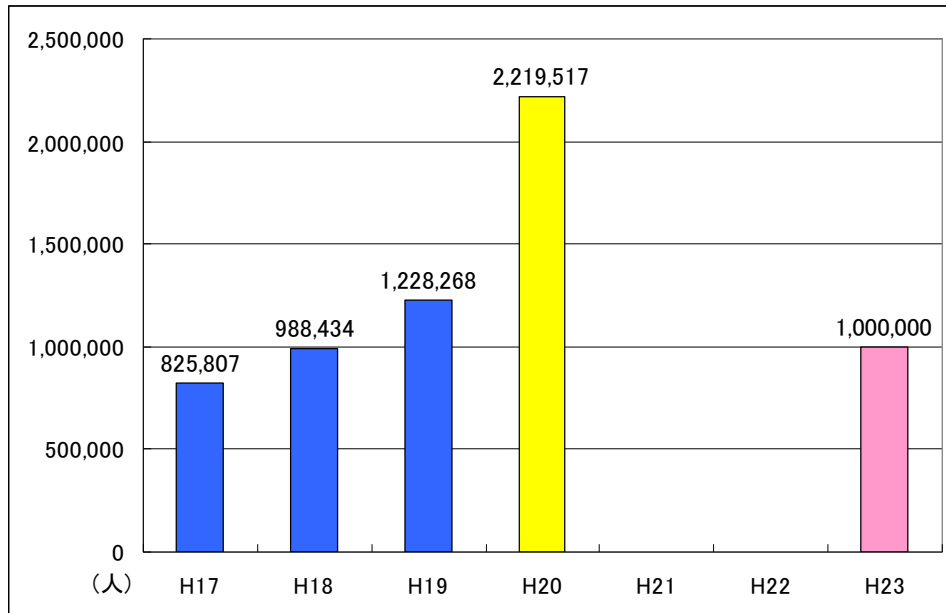
- ・ 中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量は、平成 21 年度に対前年比で 8,167 人の増加に転じたものの、基準値(H18)に比べて 16,628 人(5.37%)減少している。
- ・ 平成 20 年 4 月にオープンした熊本城本丸御殿や四季折々に開催された築城 400 年祭により熊本城入園者数が約 220 万人を記録したものの、中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量の増加は見られず、来園者が熊本城から周辺地域へ回遊していないことが想定される。
- ・ また、桜町・花畑地区の再開発事業が、世界的な金融不安、景気低迷等の影響から遅れており、基本計画期間内の完了は難しい見通し。
- ・ このような中、ストリート・アート・プレックスやみずあかり等のイベントの実施に加え、商店街では、下通を安全・安心で来街者にやさしい街とするため、アーケード改修といったハード整備のみならず、ベビーカーの無料貸し出しなどのソフト事業にも取り組み、商店街の魅力向上を図っている。
- ・ また、熊本城の建造物、いわゆるハードとしての高い魅力に加え、これまで不足していた来園者に対するサービス機能、ソフト部分の充実および街中への回遊性向上を図るため、熊本城の玄関口にあたる桜の馬場地区に、飲食・物販施設や歴史文化体験施設および周辺地域のまち歩きの拠点となる総合観光案内所等の機能を併せ持つ観光施設の整備を平成 23 年春のオープンを目指して進めている。
- ・ さらに、熊本城へのエントランスゾーンに位置し、2核3モール※の1つの核である桜町・花畑地区において、文化、交流、業務、居住等、多様な機能の集積を進める中、民間再開発事業により魅力ある商業核としての機能更新を図ることで、熊本城～桜の馬場地区～桜町・花畑周辺地区～新市街～下通～上通に至る回遊性を向上させる。
- ・ 以上の取り組みを一体的に進め、新たな魅力創出によって回遊性を向上させることで、歩行者通行量の増加を目指す。

※2核3モール：通町・桜町の2つの核とこれを結ぶ上通、下通、新市街の3つのアーケード街を示す。

Ⅲ. 目標「城下町の魅力があふれるまち」

「熊本城年間入園者数」※目標設定の考え方基本計画 P60～P64 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/年)
H17	825,807 (基準年値)
H18	988,434
H19	1,228,268
H20	2,219,517
H21	
H22	
H23	1,000,000 (目標値)

※調査月：平成20年4月～平成21年3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城の年間入園者数

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①地域創造支援事業 本丸御殿復元整備事業【実施主体：熊本市】

事業完了時期	【済】平成19年度
事業概要	熊本の歴史・文化を象徴する熊本城の本丸御殿の復元整備。
事業効果又は進捗状況	本丸御殿の入場者数は、計画策定時に想定していた9万3千人を大きく上回る約177万人を記録し、目標達成に大きく寄与している。

②永青文庫常設展示室整備事業【実施主体：熊本県】

事業完了時期	【済】平成19年度
事業概要	熊本の歴史と文化の魅力を外内外に発信し、中心市街地への求心力を高めるため、熊本城復元と併せ城主細川家ゆかりの永青文庫の常設展示室を県立美術館に整備。
事業効果又は進捗状況	永青文庫の入場者数は、計画策定時に想定していた3万人を上回る約6万人を記録し、目標達成に寄与している。

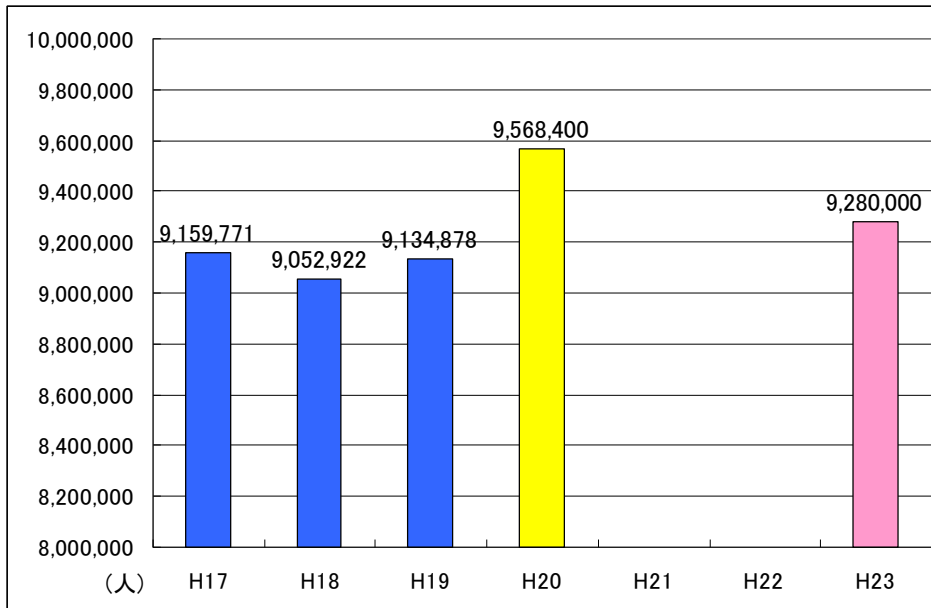
3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 史実に基づき、正確かつ忠実に復元された本丸御殿大広間の竣工や四季折々に開催された熊本城築城400年祭など、ハード・ソフトの取り組みにより数値指標の2倍以上となる約220万人を記録した。
- ・ さらに、これらの賑わいを一過性とするかないように、今後、熊本城桜の馬場観光交流施設(仮称)の整備や熊本城櫓群の復元等による歴史的建造物としての魅力創出により、観光客の滞在時間の延長、回遊性向上を図ることで、数値目標は達成の見通し。

IV. 目標「誰もが気軽に訪れることができるまち」

「市電の年間利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P65～P69 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人/年)
H17	9,159,771 (基標年値)
H18	9,052,922
H19	9,134,878
H20	9,568,400
H21	
H22	
H23	9,280,000 (目標標値)

※調査月：平成20年4月～平成21年3月

※調査主体：熊本市

※調査対象：現金運賃収入による利用者数(運賃収入/一人当たりの平均運賃)や定期券、プリペイドカード利用者の合計により算出

2. 目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①地域創造支援事業 路面電車優先信号整備事業【実施主体：熊本市】

事業完了時期	【未】平成22年度
事業概要	市電の優先信号を整備し、所要時間の短縮や定時性の確保を図る。
事業効果又は進捗状況	当初の予定通り、平成20年度に路面電車優先信号のシステム設計を行い、平成21年度には路面電車44編成に88個の車載器を設置し、22年度熊本県警において光ビーコン感知器の設置、交通管制システムの改修を行い、熊本市において受信機用の支柱を設置することで事業完了の予定である。

②地域創造支援事業 本丸御殿復元整備事業【実施主体：熊本市】

事業完了時期	【済】平成19年度
事業概要	熊本の歴史・文化を象徴する熊本城の本丸御殿の復元整備。
事業効果又は進捗状況	平成20年度の熊本城入園者数は、約220万人を記録しており、市電の利用者増加に寄与していると推測される。

3. 目標達成の見通し及び今後の対策

- ・ 低床式路面電車の導入や魅力ある企画乗車券の販売、均一料金の導入など、ハード・ソフト両面からの取組みに加え、外的要因として熊本城入園者数の増加によって、市電利用者数は前年比(H20)で433,522人増加している。
- ・ 今後は、優先信号の整備や他の公共交通機関との結節強化など、市電を中心とした公共交通機関のアクセス性や利便性を高める取組みを進めることによって、目標達成は可能である。